

## 2009 年度 小委員会活動成果報告

(2010 年 2 月 27 日作成)

小委員会名	都市と気候適応小委員会	主 査 名：成田 健一 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：稲田達夫 主 査 名：
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2011 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>ヒートアイランドは多様な要因が複雑に絡む現象であり、対策を推進するに当たっては気候変動への適応策を含め発生メカニズムの解明と対策技術の立案を行う必要がある。本小委員会では多様な要因、スケールで生じるヒートアイランド現象のメカニズムの検討を行うと共に、適応策の視点を含めて行政・自治体等の社会事業に役立つ効果的な方策を提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2009 年度：ニュースレターの発行、シンポジウムの開催</li> <li>・2010 年度：ニュースレターの発行、シンポジウムの開催</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>成田健一 (日本工大)、一ノ瀬俊明 (国立環境研究所)、渡邊浩文 (東北工大)、足永靖信 (建築研究所)、大岡龍三 (東大生研)、大谷正太 (公募・日本技術開発)、鍵屋浩司 (国総研)、玄地 裕 (産総研)、近藤靖史 (東京都市大)、谷本 潤 (九大)、鳴海大典 (阪大)、橋本 剛 (筑波大)、持田 灯 (東北大)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p><b>都市気候モデリング WG</b></p> <p>ヒートアイランドをはじめとした都市気候の形成要因や発生メカニズムを明らかにするとともに、それが人間活動に与える影響、資源エネルギー環境、地球環境等に及ぼす影響のトータルな予測・評価を含めたモデリングを行うことを目的とする。</p> <p><b>(低炭素社会におけるヒートアイランド対策 WG)</b></p> <p>ヒートアイランドをはじめとした都市気候の形成要因や発生メカニズムを明らかにするとともに、それが人間活動に与える影響、資源エネルギー環境、地球環境等に及ぼす影響のトータルな予測・評価を含めたモデリングを行うことを目的とする。</p>	
2009 年度予算	85,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	1. PD「低炭素社会とヒートアイランド」 <span style="float: right;">参加者数 95 名</span>
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p><b>目標の達成度</b> (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大会でPDを開催し、大きな反響を得た。</li> <li>2. ニュースレターの刊行は、本年はできなかった。</li> <li>3. 温暖化対策とヒートアイランド対策の関係に関しては、一ノ瀬委員を中心に「低炭素社会における都市のあり方」についての提言に結びつく議論を進めることができた。</li> <li>4. 都市気候モデリングWGは「モデリングツールのベンチマークテスト」を中心に活動を行った。</li> </ol>
<p><b>委員会活動の問題点・課題</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本来「低炭素社会におけるヒートアイランド対策WG」を立ち上げて、そこを中心とした活動を計画したが、予定していた中心メンバーの移動などがあり、当初計画どおりに活動できなかった。</li> <li>2. 本小委員会は、元々「ヒートアイランド対策」をターゲットに活動してきたが、ヒートアイランド対策の予算が事業仕分けで「廃止」の査定を受けるなど、ヒートアイランド自体の社会的な盛り上がりが見えなくなる。</li> <li>3. ヒートアイランドの議論は、地球温暖化の議論に吸収されつつあると思われるが、そのことが、逆に議論を複雑にしており、ちゃんとした議論を社会に発信すべき必要性はむしろ増している。</li> </ol>

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。